

2026年9月14日
株式会社 かんぽ生命保険
日本アイ・ビー・エム株式会社

かんぽ生命と日本 IBM、AI 駆動開発による

新たなシステム開発の取り組みを開始

ベテランの知識と AI を活かし、お客さまへの価値提供をより迅速に

株式会社かんぽ生命保険（東京都千代田区、取締役兼代表執行役社長 大西徹、以下「かんぽ生命」）と日本アイ・ビー・エム株式会社（東京都港区、代表取締役社長 村田将輝、以下「日本 IBM」）は、お客さまへより良いサービスを迅速にお届けするため、AI を活用した新たな開発の取り組みを開始しました。

本取り組みでは、AI 駆動開発※による開発業務の効率化に加え、開発現場で長年培われてきた知識や経験を整理・体系化し、組織全体で活用できる仕組みづくりを進めます。

これにより、担当者が変わっても安定した品質で開発を進められる環境を整え、お客さまニーズや社会環境の変化に迅速に対応し、より良いサービスを継続的に提供できる体制の構築を目指します。

※AI を活用してシステム開発を進める新しい手法です。これまで人が担っていた設計やプログラム作成などの作業を AI が支援し、人と AI が協力して効率的に開発を行います。

1. 背景

近年、お客さまニーズや社会環境、法制度の変化はますます速くなっています。生命保険会社には、こうした変化を的確に捉え、柔軟かつ迅速に対応しながら、安定したサービスを提供し続けることが求められています。

かんぽ生命では、お客さま体験価値の向上に向けて、新たなサービスの提供や業務プロセスの改善を継続的に進めていますが、これらを着実に実現するためには、変化するニーズを速やかにシステムへ反映し、高い品質を保ちながら開発・改善できる体制を整えることが不可欠です。

これまで開発現場では、長年培われてきた豊富な経験や専門知識が、システムの品質を支えてきました。今後は、こうした知見を組織全体で活用・継承できる形に整えるとともに、AI を活用した開発を取り入れ、人と AI がそれぞれの強みを発揮できる開発の仕組みを構築していくことが重要です。

また、大規模な開発に AI を活用するためには、AI が作成した成果物の品質をどのように確認するか、AI に任せる作業と人が確認・判断する作業をどのように分けるかなど、新たなルールや管理の仕組みが必要となります。

こうした課題に対応するため、両社は、開発現場で培われてきた知識や経験を組織全体で活用できる資産へと発展させるとともに、人と AI が協働する新たな開発の進め方を整備することとしました。

2. 取り組みの概要

知識や経験を組織の力に変える新たな開発の仕組みづくり

本取り組みでは、AI を活用した開発のルールや進め方をまとめた、かんぽ生命独自の開発標準「かんぽスペック駆動開発標準」※を整備します。

開発に関するルールやノウハウ、品質を支える知識や経験を整理した上で、AI への指示方法、成果物の作成方法、品質の確認方法、人と AI の役割分担などを体系化します。

これまでベテラン社員の経験によって支えられてきた知識や判断のポイントを、誰もが活用しやすい形にすることで、担当者が変わっても、共通のルールに基づいて安定した品質で開発を進められる環境づくりを目指します。

また、実際の開発で得られた成果や新たな知見を開発標準へ継続的に反映し、実践を重ねながら改善していきます。

※これまで開発で使われてきたルールや手順に加え、経験豊富な社員だけが持っていた知識や判断基準を AI も理解・活用できる形で整理・文書化し、人と AI が協力して開発を進めるための新たな開発標準。

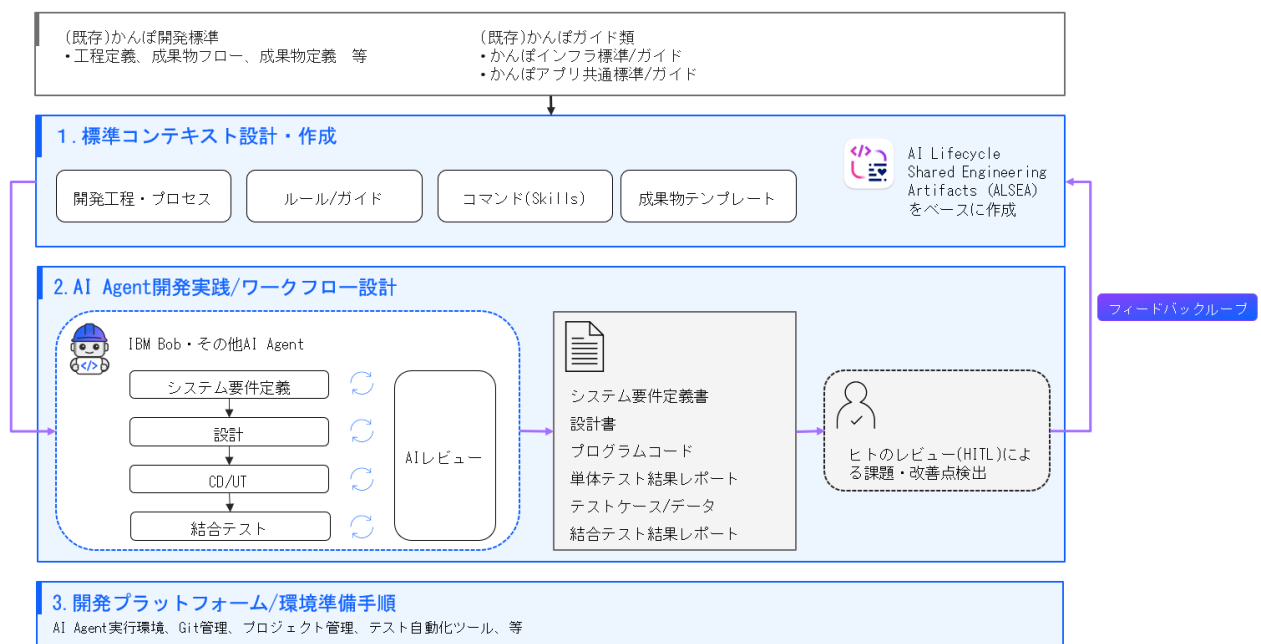
日本 IBM の技術と知見を活用

日本 IBM は、エンタープライズ向け開発支援パートナー「IBM Bob」および AI 駆動開発ソリューション「AI Lifecycle Shared Engineering Artifacts (ALSEA)」を活用し、本取り組みを支援します。

かんぽ生命が長年培ってきた生命保険事業の知見と、日本 IBM が有する AI および開発に関する技術・知見を組み合わせ、単に AI ツールを導入するだけではなく、AI を前提とした新たな開発の進め方を、実際のプロジェクトを通じて確立していきます。

また、本取り組みを通じて、開発に要する工数を従来比で 50%削減することを目指し、品質の確保と生産性向上の両立に取り組みます。

人とAIが協力して開発を進める仕組み（かんぽスペック駆動開発標準）



3. 目指す姿

本取り組みにより、以下の実現を目指します。

お客さまへのサービス提供の迅速化

お客さまニーズや法令改正などの変化に対し、必要なシステム対応をより迅速に行うことで、かんぽアプリの機能改善や各種お手続きの利便性向上など、お客さまに身近なサービスをより早く、より快適にお届けできる体制を目指します。

知識と経験の資産化・継承

長年培われた知識や経験を整理し、組織全体で活用できる形で蓄積します。個人の経験やノウハウに過度に依存せず、将来にわたって安定したサービス提供を支えられる開発基盤を整備します。

開発の品質向上

AI に任せる作業と人が確認・判断する作業を明確にし、それぞれの強みを活かすことで、開発に必要な品質を確保します。

開発人材の育成

AI の活用方法や品質確認の基準を標準化し、開発担当者が共通の手法で業務を進められる環境を整備します。ベテラン社員の知識や経験を組織全体で共有し、次世代を担う開発人材の育成につなげます。

社員がより付加価値の高い業務へ注力

AI の活用によって開発業務を効率化し、社員が新たなサービスの企画やお客さま体験の向上など、より付加価値の高い業務に注力できる環境づくりを進めます。

4. 今後について

今後、開発現場で培われてきた知識や経験を組織の資産として活用し、担当者が変わっても安定した品質で開発を継続できる基盤を構築します。

かんぽ生命は、経営理念の実現に向け、AI とデジタルの活用を通じてお客さま一人ひとりに寄り添ったサービスを提供し、お客さま体験価値のさらなる向上に取り組んでいきます。

日本 IBM は、AI と大規模開発で培ってきた知見を活かし、今後も継続してかんぽ生命における開発の変革を支援していきます。